

ひと  
ひと

## つながりのある社会へ

## コラムのページ columns stand

の参議院議員選挙の争点のひとつとして

憲法改正に関する

ニュースが多く取り上げられました。書店でも憲法に関する特設コーナーが設けられたり、漫画や写真などを使ってわかりやすく解説した本が人気を集めたりと憲法に関心が集まっていたようです。

その日本国憲法ですが、皆さんご存じのように主権在民・平和主義・そして基本的人権の尊重の3原則に立っています。しかし、昨今の現状をみると、子どもへの虐待事件や高齢者の孤独死のニュースが毎日のように報道されています。また、自殺者が昨年は3万人を下回ったとはいえ過去14年連続で3万人を超えるなど世代を問わず、人が人らしく生きる権利である「人

権」が保障されているとはいえない状況にあります。

2年ほど前に「無縁社会」

という言葉がクローズアップされました。これは、社会から孤立する人が増えているという日本社会の側面を表した言葉です。そもそも人間は大きく3つの「縁」により支えられています。ひとつは血縁（家族の縁）、2つ目は地縁（地域の縁）、そして社縁（会社の縁）です。今、こうした縁が弱まりつつあり、孤立しやすい社会となっているのです。

このことが先に述べたさまざまな問題を引き起こしていると考えられます。平成19年版国民生活白書においても、これら3つのつながりは弱まっていると結論付けています。特に「地域の縁」の希薄化は、本市を含め都市部では顕著で、

分かりやすいところでは、自治会加入率が年々減少傾向にあります。

2011年3月東日本大震災を機にわたしたちは家族の絆、人との絆の大切さを考えるようになりました。これを

教訓に日本全体が人の絆で結ばれるような社会を築いていかなければなりません。国や行政サービスだけに任せることはありません。言うまでもう、こうした社会が訪れるものは、地域、家族やコミュニティです。私たち一人ひとりが家族のこと、地域のことに関心を持ち、つながりが途絶えることのない社会（組織）をつくるしていくことが今求められているのではない

でしょうか。

### コラム 知ってトクする元気になれる! 健康アップ 大作戦!

## 新たな国民病?? 「慢性腎臓病(CKD)」

もし、健康診断の尿検査で「尿たん白」が陽性になった場合、あなたはきちんと診察に行きますか？

「大したことない」と放置していると、大きな病気にながってしまうかもしれませんよ。

### ■慢性腎臓病(CKD)って何?

腎臓には、血液を常にきれいにして心臓へ返すという重要な働きがあります。これができなくなると人は生きることができません。体にとって大切な腎臓の機能がゆっくりと低下していく病気が「慢性腎臓病(CKD)」です。厚生労働省の発表では、国内の推定患者数は約1330万人（成人の8人に1人）と推計されていて、メタボなど生活習慣病との関連が強いことから、新たな国民病と言われ始めています。

### ■動き盛りから危ない!

慢性腎臓病が怖いのは、初期には自覚症状がほとんど

ないために病気の進行に気付きにくいことと、腎臓の機能がある程度まで低下してしまうと正常には回復しないことです。末期的な状態の腎不全になると、厳しい食事・水分制限のほか、1回に4~6時間かかる人工透析を生涯受けなくてはなりません。また、慢性腎臓病は数年~十数年をかけて進行するため、働き盛りの30代や40代のころから注意が必要なのです。

### ■予防・早期発見のために

慢性腎臓病を進行させるのは、肥満・高血圧・糖尿病・メタボリック症候群といった、いわゆる生活習慣病です。予防のためにも、日頃から健康的な生活習慣を心がけるほか、年に1度は健診を受けて、生活習慣病の「芽」が出ていないか確認しましょう。また、健診の結果で尿たん白が出ていた場合は放置せず、一度医師の診察を受けてください。

# まちの話題 Izumiotsu Town Topics

泉大津で起きたさまざまできごとやイベントを、写真とともにお届けします。

say cheese!!



### Eボート交流大会を開催 梅雨明けの夏のひとときを満喫

7月14日、なぎさ町きららタウン前海域付近で、Eボート交流大会が開催されました。

当日は、大会に参加する人や応援団など多くの人にぎわい、梅雨明けの夏のひとときを大いに満喫していました。



### 土の感触を楽しんでいました

6月23日、池上曾根史跡公園内の体験水田で、稻作について学ぶ「こだい米クラブ」が開催されました。これは、子どもたちが1年を通して田植え、稻刈りをして収穫したお米を炊飯・試食するまでを体験するもので、毎年行われています。

田んぼには、これまでの雨で水がたっぷりはら



れていて、足を踏み入れた子どもたちは、ぬかるみに足をとられ、悲鳴をあげながらも大喜びで土の感触を楽しんでいました。田植えは、最初は慣れない手つきでしたが、時間がたつにつれスピードも速くなり、あっという間に予定の区域に苗が植えられました。



## 津波災害へ備えを高めました

市では6月23日、南海トラフ地震で津波による被害が想定される地域を対象に避難訓練を実施しました。市・消防団・警察・自主防災組織・住民が一体となり、津波情報の伝達や避難行動の習熟を図るために実施しているもので、今回の訓練には約300人が参加しました。

参加住民は、同報系防災行政無線の屋外拡声器から流れる避難指示を合図に、自宅から訓練避難場所である上條小学校へ徒歩や車いすで避難し、避難に要する時間や安全な避難経路などの確認を行いました。



## みんなの願い、かなうかな

7月3日、市内各幼稚園で夏まつりが開催されました。穴師幼稚園では、親子で小さな笹に飾り付けを行い、園児たちが短冊に願い事を書きました。また、園庭ではヨーヨー通りなどの模擬店も出店され、園児たちは楽しいひとときを過ごしました。



## 八 楠幼稚園で給食試食会を開催 ハヤシライス おいしいね！

6月21日、楠幼稚園で給食試食会が開催されました。メニューは、子どもたちの大好きなハヤシライスが用意され、おいしそうに試食していました。

同園は、平成26年度認定こども園になり、給食が実施されます。子どもたちにも、みんなで食べる給食を味わってもらおうと、園児と保護者に給食試食会を行っています。



## 相互の発展と充実を図ります

7月1日、本市は、桃山学院大学と連携協力に関する協定を締結しました。同大学との協定は、本市にとって、平成22年11月のプール学院大学、平成23年6月の羽衣国際大学に続く3件目の官学連携協定になります。本市と大学の双方が、文化・地域づくり・環境保全・人材育成・産業・商工振興などの幅広い分野において、包括的な連携協力を積極的に進め、相互の発展と充実に寄与していきます。

また6月5日には、教育委員会がかねてから連携を続けていた大阪体育大学と新たに連携協定を締結しました。教育委員会はすでに、6つの大学（プール学院・大阪大谷・帝塚山学院・四天王寺・羽衣学院・桃山学院）と連携協定を結んでおり、大学生への教育現場を体験する機会の提供を図ることで、教育活動および地域の各種活動への支援などを推進しています。今後も各学校園のニーズに数多く応えることができるよう、この取り組みを進めています。



## 戦争と平和について再考 平和メッセージ展などを開催

7月11日から15日まで平和への願いを込めたうちわ作品全985点を泉大津CITYアルザ1階アトリウムに展示しました。11日には、最優秀賞に選ばれた中山啓史さん（楠小4年）をはじめ、特選5人、戦没者遺族会賞1人に対する表彰式が行われました。

また、7月17日から31日まで市役所1階市民ロビーに戦争や平和に関するパネルを展示しました。泉大津市戦没者遺族会による展示や、平和メッセージ展での優秀作品なども展示し、訪れた人々に平和や戦争についてのメッセージを発信しました。



## 立ち直りを支える地域のチカラ 「社会を明るくするつどい」を開催

「社会を明るくする運動」強調月間の一環として、7月6日に「社会を明るくするつどい」が市民会館小ホールで開催されました。当日は、約250人参加のもと、犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラをメインテーマに、「更生保護の心を歌う」と題した合唱、優秀標語の表彰式、浄土宗善福寺住職・福井淨堂氏による「教誨(きょうかい)について」の講演が行われ有意義なつどいとなりました。



## 全国金魚すくい選手権大会泉大津予選大会開催 指せ全国大会！

奈良県大和郡山市で本大会が行われる「全国金魚すくい選手権大会」の予選大会が、7月7日市民会館で開催されました。

競技は、一般と小中学校の部門に分かれ、3分間に1人1枚のポイでどれだけ金魚をすくえるかを競いました。各部門の上位3人は大和郡山市で開催される全国大会へ出場します。



## 環境にやさしい料理です エコクッキングを開催！

6月21日、総合福祉センターで、生ごみを出さない環境にやさしい「エコクッキング」を開催しました。料理前に「地球環境問題に関するミニセミナー」を実施し、その後調理実習を行いました。最後は、各班から調理中に出ていた「生ごみ量の対決」を行いました。一番少ない班は、なんと9g！ 一番多い班は100gという結果になりました。